

大阪の選挙と「世論」

9日朝、「大阪の選挙」というレポートを書き投稿した。なぜ大阪では維新なる地域政党が強いのか、3点ほど私なりに理由をあげた。あまり反応はなかったが、ネット上では今回の選挙結果について多くの議論がみられる。それも参考にしながら「選挙関連」レポートの続きを書いていきたい。

朝日新聞9日朝刊に出口調査の結果が出ていた。大阪府知事・市長の選挙で、投票者の7割がこれまでの大阪維新の会の政治手法を評価した。脱法的な行為である「入れ替えクロス選」には、府・市民とも6割以上が「評価する」と回答。維新が掲げる大阪都構想に賛成する人は、大阪市では全体の59%、府では全体の64%に達した。

ダブル選の勝敗以上に、この出口調査の結果に驚いた。でも冷静に考えれば出口調査は、選挙に行き投票を済ませた人の評価であり、選挙結果と同じ傾向なのは当然である。それで切り抜いておいた朝日新聞4月2日朝刊に掲載された世論調査の結果を抜粋して紹介したい。

都構想は、大阪市をなくして東京23区のような特別区に再編する制度改革。ダブル選の最大の争点となっている。調査で都構想への賛否を尋ねたところ、府民は賛成36%、反対28%。市民は賛成43%、反対36%だった。市民に限って見ると、年齢別では70歳以上で反対が上回ったが、60代以下では賛成が多かった。また維新支持層の9割が賛成で、自民支持層では反対がやや上回ったものの、3割台半ばが賛成と答えた。

維新代表の松井一郎・前知事と、維新政調会長の吉村洋文・前市長が入れ替わって立候補したことについて、府民調査では「評価する」27%、「評価しない」49%、市民調査でも「評価する」33%、「評価しない」51%となり、いずれも評価は少なかった。

維新のこれまでの政治手法についての評価も聞いた。府民、市民の両調査ともに「大いに」と「ある程度」を合わせて「評価する」が6割以上だった。自民支持層も両調査で「大いに」「ある程度」の評価が計6割以上となり、無党派層でも同様に評価が6割前後だった。

「クロス選」については低評価であったが、維新のこれまでの政治手法については評価が高かった。注目したいのは、都構想も大阪府市ともに賛成が上昇していることだ。なぜ大阪市を廃止して、4特別区にする都構想「賛成」が増えているのだろうか。

(2019年4月15日)

